

「自分らしく働く」

住友化学株式会社
健康・農業関連事業研究所 創薬化学グループ

三村 奈津紀

私は 2014 年 3 月に工学研究科生命先端工学専攻博士前期課程を修了しました。その後、住友化学株式会社に入社し、今年の春で入社 3 年目を迎えます。

住友化学は総合化学メーカーで、石油化学、エネルギー・機械材料、情報電子化学、健康・農業関連事業、医薬の 5 事業分野にわたり、幅広い産業や人々の暮らしを支える製品をグローバルに供給しています。幅広く人々の生活に貢献することができると思い、入社を希望しました。現在は健康・農業関連事業研究所で農薬の研究開発に携わっています。

入社してからこれまでの 2 年間は、新しい環境に戸惑い、悩んだ 2 年間でした。

学生時代、日本酒の香味成分解析を行っていた私にとって、創薬研究は畑違いの分野です。農薬だけでなく創薬の知識もないのに、いきなり新しい農薬を見つけるというミッションを与えられ、途方にくれました。会議では研究の議論についていくことができず、つらい日々を過ごしました。

研究内容以前に、私は研究職の仕事の仕方がよくわかりませんでした。お給料をいただいているというプレッシャーから、ただひたすら手を動かし続け、論文を読んだり資料を探したりする余裕がありませんでした。それでは研究の知識が深まるはずがなく、焦りが募るばかりでした。

また、将来のキャリアプラン設計にも悩んでいました。女性としてこれから迎えるであろう結婚・出産などのライフイベントを、仕事と両立しながらいかに乗り越えていけばいいのかと、不安に思っていました。部署内でも研究所同期内でも紅一点だった私は相談できる人がいませんでした。

そんな日々にも光が差し込んできたのは、最近のことです。理解できなくてつらい会議でも、めげずに出席し続けていると、次第に理解できる話題が増えてきました。研究や会社の方針がわかってきて、全体像が見えてくると、自分の役割も見えてきました。肩の力を抜いて、研究に

ついて考える余裕も生まれました。また、女性の働き方を知るために、社外のワークショップに足を運びました。するとそれが所内の他部署の女性社員の耳に入り、所内の女性社員の集まりに呼んでいただくことができました。それがきっかけでネットワークが広がり、いろいろな悩みを相談できる相手がたくさんできました。辛くても、めげずに行動することが大切で、そうすれば道は開けるのだろうと思います。

入社 3 年目を迎える今考えることは、環境に慣れようと必死だった 2 年間とは正反対です。既存の考え方や体制にとらわれず、自分の思うことをやってみようと思っています。恥をかくことを恐れずに自分らしく働いてみます。住友化学のコーポレートスローガンは「様々な発想、価値観や技術を融合させて化学の枠にとどまらない新たな価値を生み出す“創造的ハイブリッド・ケミストリー”」です。物理、生物、化学を基盤に広範な理工学分野に必要な自然現象を学問対象とする応用自然科学科で学んだ私だからこそできる仕事があるはずだと思っています。

辛かった時、自分一人で踏ん張れたわけではありません。その陰には学生時代を共に過ごした同期や先輩、後輩の存在がありました。この 2 年間は、人を頼ることが苦手な私が、もっと人に甘えてもいいんだということに気付けた期間でもありました。これから先超えていかなければならない壁は、この 2 年間の比ではないはずですが、皆と切磋琢磨し、一人前の社会人となって世界中の人々に貢献したいと思います。

最後になりましたが、この様な寄稿の機会を下さいました恩師福崎英一郎先生に御礼申し上げます。

(応生 平成24年卒 生命先端 平成26年修士)